

「持続可能性を確保する広域的で高次の知識と行動を考える分科会」設立の趣意書

【1】21世紀に生きるわれわれが直面する、地球環境問題、資源・エネルギーの枯渇、災害や事故の巨大化、貧富の差の拡大、難病の発生、内外の対立と争いの激化など、地球規模の難題に対して、われわれが主体的かつ能動的に対処するためには、

人間の営みのパラダイムを自然の系の基本的なルールとよりよく適合するものに転換して行かなければならないものと考えられます。

【2】1996年に設立されたアブダクション研究会は、地球規模の難題に真正面から対処するために、人間の営みのパラダイムを転換するべく、知識の広域化と高次化を目指し、多様な探究を積み重ねて、一步一步進化を続けて、成果を挙げてきています。

【3】アブダクション研究会のこれまでの探究の成果を生かしながら、それらの成果を、経済学・工学・生物学・政治学・社会学・哲学・倫理学などの関連する知見と結びつけて、広域的で高次の知識と行動のあるべき姿を探っていくことが重要だと考えられるような新たな段階に入ってきています。

【4】つきましては、「持続可能性を確保する広域的で高次の知識と行動を考える分科会」の設置について、第106回アブダクション研究会で、皆様のご賛同とご了承を得て、できれば本年2016年2月から、研鑽と探究の分科会活動を開始したいと存じています。

【5】新分科会が志向する当面の研鑽と探究の主要な内容は次の通りです。

1. 持続可能性を確保するための人間力の増強について・・・その論点と課題
2. 地球のエネルギー収支、物質収支の現状と先行き・・・その論点と課題
3. 地球の生態系の現状と先行き・・・その論点と課題
4. 21世紀に求められる人間の思考と行動のありかた、閉じた世界と開かれた世界
・・・その論点と課題
5. 21世紀に求められる人間の営みのありかた、有効生産・有効消費・有効廃棄の世界
・・・その論点と課題
6. その他

【6】新分科会の運営について

新分科会は、原則として、2ヶ月ごとに開催するものとする。

会合のまとめ役としての議長は、アブダクション研究会世話人が務め、事務局も同様とする。

以 上